

人権同和教育委員会

一 テーマ

世の中にあるあらゆる人権課題を自分事として捉え、人権課題をなくそうとする意欲と実践力を養うための人権同和教育をどのように進めていったらよいか。

二 テーマ設定の理由

昨年度、各校の同和教育実践の様子を把握したり、授業参観したりすることを通して、あらゆる人権課題をなくそうとする意欲と実践力を養うための人権同和教育について研究を進めてきた。本年度は、各中学校区の実践事例や課題を把握したり、各校の研究授業を参観したりすることを通して、地域の実態を活かした人権同和教育をどのように展開するか検討し、上田市のポータルサイトなどで情報を共有できるように調査・研究を進める。

三 研究の経過

- ① 5月 7日（火） 総委員会
- ② 6月25日（火） 各校・各中学校区の実践の持ち寄り課題把握
- ③ 8月 2日（金） 各校の課題に対する取り組み・研究授業の検討等
- ④ 11月13日（水） 研究授業参観（東部中学校）
- ⑤ 11月21日（木） 授業実践・研究授業の成果や反省等
- ⑥ 11月27日（水） 研究授業参観（丸子中央小）
- ⑦ 11月28日（木） 総委員会・本年度の資料収集について
- ⑧ 12月 5日（木） 掲載資料の検討

四 研究の内容

- (1)各中学校区の実践事例や課題を把握し、地域の実態を活かした人権同和教育をどのように展開するか検討する。
- (2)各校の研究授業を参観することを通して、自らの指導を振り返り、意欲と実践力を養うための授業実践を学ぶ。
- (3)本研究での成果や課題を上田市のポータルサイトで共有できるようにする。

五 研究のまとめと課題

本年度は、LGBTを含む多様な性の問題や、子どもの実態に寄り添った指導など、各校の様々な課題や個別的視点に対する指導実践を共有・検討することができた。東部中の実践では、セクシャルマイノリティ当事者と出会い、多様な性や生き方について真摯に考え、深く学ぶことができた。また、丸子中央小の実践では「自分や友だちのよさ」を重点に置き、全教科に人権教育目標が据えられた。ここでは、個別的視点を明確にすることで指導内容を鋭角に絞ることができた。それぞれの実践では、子どもたちが人権課題に向き合って考える姿が見られた。これは単に授業場面だけでなく、学校教育の全ての場面で、人権的な視点を持って学習している成果だと考えられる。本年度の取り組みから、各校の人権同和教育に普遍的な視点、個別的な視点を明確にすることの重要性を学ぶことができた。また、その視点を義務教育における系統だった指導へつなげていくため、今後も本委員会から提案していきたい。

六 委員名簿

推進係 網干直人（武石小）

委員長 畔上和也（滋野小） 副委員長 山下妃世（東部中） 会計 吉池祐子（長門小）

委員 清水和（丸子中央小） 寺田慶子（第一中）